

令和3年度重点事業 主な事業

「ITを活用した心が通う便利で豊かな田舎暮らし」の実現に向け「心豊かに暮らせるまちづくり」「安心のまちづくり」「活力あるまちづくり」の3つのまちづくり重点事項を推進します。



「ITを活用した心が通う便利で豊かな田舎暮らし」を実現するまちづくりを進め、持続可能なビヨンド・コロナ社会の構築を目指します。

舞鶴市SDGs未来都市 推進事業費 ビヨンド・コロナ

3,843万円

先進技術の導入による地域交通の利便性向上や防災機能の強化、新たなビジネス機会の創出、市内企業が求める人材育成などに取り組み、SDGs未来都市として目指す持続可能で「ITを活用した心が通う便利で豊かな田舎暮らし」の実現に向け、計画段階から実装段階へと移行して事業を推進します。

- ◇共助による移動手段(meemo)導入に向けたMaaS推進事業費
- ◇リカレント教育調査事業費◇赤れんがコワーケーション推進事業費
- ◇産官学連携によるICTを活用した防災・減災システム導入事業費
- ◇AI・ロボティクス業務効率化推進事業費

1 心豊かに暮らせるまちづくり

地域のつながりと新しい地域コミュニティの創造
3,845万円

多世代交流施設「まなびあむ」を令和3年7月に開設。幅広い世代が集い交わることで次世代の地域の担い手づくりを推進し、民間活力を導入しながら、市民の健康増進と多様な交流・賑わいの拠点を目指す

2 安心のまちづくり

浸水・治水対策の推進
(東西市街地の浸水対策・河川整備)
11億4,955万円

府高野川整備事業と連携した内水排除ポンプの整備(下水道事業会計)、河川・水路等にある排水口への逆流防止施設設置や浸水被害を引き起こしている箇所への河川整備(一般会計)など、総合的な浸水被害対策を実施

3 活力あるまちづくり

地方創生拠点整備事業の推進
6億1,377万円

赤れんがパークを中心としたエリアを、日本海側を代表する一大交流拠点とするための整備を推進(防衛省の「まちづくり支援事業」を活用)

0歳から就学前までの一貫した子どもの育ちや学びを支援する教育・保育体制の推進(うち、新規拡充分)／質の高い乳幼児教育の推進
17億9,524万円



安定したごみ処理に向けた取組
21億4,622万円

- ◇次期最終処分場整備事業費
- ◇清掃事務所第一工場整備事業費
- ◇ごみ減量化推進事業費
- ◇不燃ごみ収集事業費
- ◇高齢者等ごみ出し支援戸別収集事業費

GIGAスクール構想の推進
9,009万円

救急医療体制の確保に向けた取組
8,821万円

- ◇休日救急輪番制事業費
- ◇公的病院救急医療体制確保事業費補助金
- ◇舞鶴市休日急病診療所管理運営経費



橋りょう長寿命化事業費
1億6,900万円

橋りょう長寿命化修繕計画に基づく点検と修繕や舞鶴クレインブリッジの早期復旧に向けた補修工事の実施

幹線道路整備事業費
4億8,266万円

市道と泉通線

未来にはばたけ! 頑張る事業者応援プロジェクト事業費
2,350万円 ビヨンド・コロナ

ビヨンド・コロナ社会を見据えた地域経済の活性化を図るため、舞鶴商工会議所、地元金融機関、関係団体と連携し、事業者の各ステージに対応した支援の実施

舞鶴漁港整備事業費
3,200万円

新型コロナウイルス感染症対策

令和元年度と令和2年度補正予算では、**予算総額約107億円**を計上し「感染予防と拡大防止策」「コロナ禍における市民生活及び地域経済活動の支援」「感染症に打ち勝ち、乗り越える持続可能な社会経済システム『ビヨンド・コロナ社会』の構築」に向け、取り組みました。令和3年度についても、補正予算において引き続きこれらの取り組みを進めていきます。

※「ビヨンド・コロナ社会」とは、大都市集中型の社会から地方の拠点都市と大都市が連携、共生し、感染症に打ち勝ち、乗り越える持続可能な社会経済システムを指します。

移住定住の促進(補助制度等(舞鶴に「住んでもらう」)) ビヨンド・コロナ

3,636万円

- ◇農村移住・交流促進事業費◇子育て世帯住宅リフォーム等支援事業費
- ◇まちなか暮らし推進事業費◇漁村移住受入促進事業費補助金 など

